

当面の技術対策（畜産編）

令和4年6月15日
発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

本年の牧草は草丈がやや短く、チモシーは2日程度遅く出穂を迎えています。収量は多い傾向にありますが、更新後経過年数によって収量にバラツキがみられます。サイレージの廃棄ロス削減に向けた収穫調製時にできる対策を徹底しましょう。

1 土砂や堆肥などの異物混入防止に向けた刈り取り高の調整

- (1) モアコンディショナに通称ゲタ（ソリ）と呼ばれる高刈り用の部品（商品名：ハイスキッドプレート、ハイカットスキット、ストーンガードなど）を装着する。
- (2) 機械の調整：モアコンディショナのスプリング調整、ハーベスタのピックアップ装置の高さ調整など

2 条件に合わせた添加剤の活用

- (1) 乳酸菌：乳酸菌が働きやすい環境を整えるため、原料草は予乾して水分70%前後に調整する（高水分に対応した製品もあります）。
- (2) ギ酸：天候がすぐれず収穫せざるを得ない場合など、原料草の水分が75%以上の場合はpHを3.8以下にして不良発酵を抑制させます。原料草を搾汁後、pH試験紙やpHメーターで確認し、添加量を調整しましょう。

3 サイレージシート破損の防止対策

- (1) 鳥害対策：バンカーの上にトワインを張る、ピンホールの補修
- (2) ネズミ対策：ネズミトラップの設置、バンカー周辺の草刈り、物品整理（ネズミの天敵は鳥です。上から見たときのネズミの隠れ家を排除することが大切です。）

農作業安全と体調管理に気をつけて作業を行ってください！